

◆平成29年度 友の会 予算

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(収入の部)

項目	予算額(円)	備考
会費	400,000	2,000円×200人
特別企画展収入	500,000	グッズ受託販売手数料収入等
雑入	80	預金利息
前年度繰越金	377,620	
合計	1,277,700	

(支出の部)

項目	予算額(円)	備考
入館料	200,000	会員券(400円×200人) 企画展招待券(700円×100人、500円×100人)
特別企画展 関連経費	500,000	グッズ受託販売 人材派遣・搬送料等
自主・共催事業 関連経費	40,000	朗読会謝礼
会議費	10,000	役員会用お茶代等
印刷費	80,000	友の会会報印刷等
郵送料	200,000	切手、往復ハガキ、 郵便メール便等
消耗品費等	50,000	消耗品等購入
予備費	197,700	
合計	1,277,700	

(収入の部)1,277,700円 - (支出の部)1,277,700円 = 0円

二十九年度総会と 初の会員交流会を開催

北九州市立文学館友の会の平成二十九年度総会が六月二十四日午後三時から、文学館交流スタジオであり、二十八年度事業報告と決算、二十九年度事業計画と決算を承認しました。

総会には三十三人が出席。冒頭、後藤みな子会長は、近年の深刻な若者の活字

離れに触れながら「社会の趨勢に迎合することなく、市民と共にある文学館を支えていきたい」とあいさつ。今川英子館長は、文学館が開館十周年を機にリニューアルに向けて検討に入ったことを紹介し「子供たちに街の記憶を刻み未来を開くために文学館がどうあるべきか忌憚のないご意見を」と呼びかけました。

午後五時からは会場を文学館近くのホテルクラウンパレス小倉に移し、北橋健治市長も参加して初の交流会を実施。ハ

友の会会報

北九州市立
文学館

第5号

平成29年7月

ンドベル奏者の石井のりさんの演奏を楽しみながら懇談に花を咲かせました。



総会での今川館長のご挨拶

交流会での北橋市長のご挨拶

学芸員の仕事 学芸員・稲田さんが講演

総会では議事終了後、市立文学館学芸員の稲田大貴さんが「学芸員の仕事」と題して講演。昨年度に文学館が実施した若松区の火野葦平資料館の展示リニューアルの内容を紹介いただきました。

葦平資料館は一九八五年に葦平顕彰の目的で若松市民会館内に設けられ、葦平ファンらで作る「火野葦平資料の会」が

管理運営にあたってきました。葦平資料は二〇一〇年度に遺族から市に寄託されたことから、資料の保存、整理と展示方法を充実させるために昨年度、市が二百五十万円の予算をかけてリニューアルを実施しました。

稲田さんによると、資料の劣化を防ぐために展示ケースに湿度を一定に保つ調湿材を設置。特に劣化が激しい日中戦争中の従軍手帳などは展示から外し、レプリカで代用しました。葦平になじみが薄い来館者も取り付きやすいように、一〇〇〇〜二〇〇〇字で書かれていた説明用のパネルを四〇〇〜五〇〇字程度の簡易な文章に変更。映像機器を設置して葦平のDVDを常時上映したり、葦平が描いた河童の絵をパネルの説明文に取り入れるなど、子供にも親しめるようにビジュアル化にも工夫を凝らしたといいます。また、やや暗い印象を与えていた館内ですが、資料を劣化させる紫外線をほとんど出さないLED照明を設置することで明るく見やすくなる改善をしたといいます。

資料の保存と展示という、時として矛盾する役割が課される博物館。稲田さんは「劣化の進む原資料をレプリカで代用することには来館者から不満があるかもしれないが、あくまでも資料を守った上で活用策を考えるのが学芸員の仕事」と強調。山本幸三・地方創成担当大臣の「観光マインドが全くない学芸員はがん」という発言が物議を醸したばかりですが、「大臣に言われても信念は変わらない」と、学芸員の気概を示してくれました。

北九州市立文学館
第24回特別企画展
上橋菜穂子と
〈精霊の守り人〉展
平成29年7月22日(土)
~平成29年9月3日(日)



北九州市立文学館
第25回特別企画展
生誕90年記念
藤沢周平展
(仮称)
平成29年10月28日(土)
~平成29年12月10日(日)
写真提供:文藝春秋



文学館特別企画展
「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」
& 「生誕90年記念 藤沢周平展」

今年度、文学館を訪れる皆様は、ワクワク・ドキドキしながら、上橋菜穂子と藤沢周平が創りだしたファンタジーと物語に巡り合うことになるでしょう。

「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」(平成29年7月22日~9月3日)
「生誕90年記念 藤沢周平展」(平成29年10月28日~12月10日)

上橋菜穂子さんは、文化人類学の研究者でもあり、その知識を駆使してファンタジーを書いています。その代表作が〈精霊の守り人〉シリーズであり、多様な文化や価値観が混在する多文化共生の世界観を感動的に描いています。現在、NHK放送90年大河ファンタジーとして継続的にドラマ放映中であり、話題性も十分です。

藤沢周平さんは、今年、没後20年、生誕90年であり、それを記念しての特別展です。九州を描いた作品も取り上げますので、乞うご期待と言ったところです。

子供の頃、夢中になって読んだ本「少年ケニヤ」(山川惣治)、「ソロモン王の洞窟」(ハガード)が、私にとって、初めて経験した異世界ファンタジーの世界でした。「精霊の守り人」も「暁しぐれ」を読んだとき、大人になって忘れていた物語が蘇ってきました。私にとっては、「精霊の守り人」も「暁しぐれ」も、異世界ファンタジーなのです。歴史様のように船が水平線から坂を上がってくるように姿を現す架空の藩「海城藩」は、「新ヨロ帝国」と同じように、ファンタジーの舞台に相応しいと言えます。それはまた、私たちのいる現実世界をも、うきばりにするのです。(加賀美清之)

映画と文学
北九州市立文学館と
小倉昭和館のコラボ

戦後七十二年目を迎えるこの夏、七月十五日~八月四日の期間に小倉昭和館では、特集を組み六本の映画を上映します。平和な時代を生きる私たちだからこそしっかりと観ておきたい、戦争を題材にした映画。ラインナップにはアニメ『この世界の片隅に』、ドキュメンタリー『沖繩うりずんの雨』、そして井伏鱒二原作『黒い雨』などをあげています。

『黒い雨』は井伏鱒二の同名小説を「樋山節考」の今村昌平監督が一九八九年に田中好子、北村和夫、市原悦子などの出演者で映画化。原爆の恐怖、戦争の悲劇そして人間の尊厳を描き、日本アカデミー賞の最優秀作品賞をはじめ数々の賞を受賞しました。また女優の奈良岡朋子さんは、『黒い雨』のひとり語りをライフワークとしており、北九州市民劇場創立六十周年記念として七月二十三~二十四日に北九州芸術劇場で公演が行われます。この夏は原作を読み、映画を観て、ひとり語りを聴き、井伏鱒二の世界に浸ってみては如何でしょうか。

秋の北九州市立文学館特別企画展「藤沢周平展」の期間にも藤沢周平原作映画の協賛上映を行いたいと思えます。皆さまからの上映リクエストを募集中です。よろしくお願い致します。(小倉昭和館館主 樋口智巳)



おすすめの本
『コシヤマイン記・ペロニカ物語』
—鶴田知世作品集—
鶴田知世著 講談社文芸文庫
二〇〇九年四月一〇日発行

昭和十一(一九三六)年に『コシヤマイン記』で第三回芥川賞を受賞した作者は、旧小倉市大坂町で誕生。旧制豊津中学校を卒業後、上京して神学校に入学するが中退。北海道に半年間滞在し、開拓の歴史や農業とくに酪農に興味を抱く。その後、同郷の葉山嘉樹に誘われてプロレタリア文学運動に参加し、精力的に活動した。

『コシヤマイン記』は、巫女の語る神話的な伝承物語として構成されており、アイヌ民族英雄の末裔コシヤマインの悲劇的な人生が叙事詩風のスタイルで描かれている。民族復興の願望を抱きながら、日本人の迫害と同族の裏切りに遭うコシヤマインの苦難の逃避行、そして非業の死は、読む者の心に迫ってくる。侵略する者と侵略される者との民族の争い、資本家と労働者の確執というようなテーマが、作者の悲痛な問題意識として伝わってくる作品である。

作者はこの作品によって文壇で認められ、プロレタリア作家、北海道開拓民の群像を描く農民作家、さらに児童文学の作家として多くの作品を残している。晩年は農業共同化の推進や農村文化運動に携わり、農民の地位向上に貢献した。草木画を描くことも楽しんでいる。

一九九二年に作者の生誕九〇周年を記念して、みやこ町の八景山自然公園に文学碑が建立された。碑文は北海道八雲町ペンニラの丘にある文学碑(一九八五年に建立)と同一で「不遜なれば未来の悉くを失う」と刻まれている。この碑は葉山嘉樹文学碑と向かい合っており立っている。

今年のお正月、作者の親戚の方に偶然お会いする機会があった。小学生の頃から大学時代まで親しくしていたという彼女は「やさしい人柄の伯父でした」と述懐した。(三村 保子)



❖ 平成28年度 友の会決算報告

[平成28年4月1日～平成29年3月31日]

(収入の部)

項目	決算額(円)	備考
会費	356,000	2,000円×178人
特別企画展 収入	465,881	特別企画展 グッズ販売手数料収入等
自主・共催事業 収入	69,000	文学館セミナー参加料 (3,000円×23人)
雑入	83	預金利息
前年度繰越金	339,257	
合計	1,230,221	

(支出の部)

項目	決算額(円)	備考
入館料	88,200	会員券(400円×184人) 企画展招待券(22枚)
特別企画展 関連経費	450,388	特別企画展 グッズ販売業務委託料等
自主・共催事業 関連経費	89,856	文学館セミナー 講師料等
会議費	800	友の会取材時 コピー代
印刷費	54,000	友の会会報印刷代
郵送料	162,402	切手、往復ハガキ、 郵便メール便等
消耗品費等	6,955	友の会あて名スタンプ代
合計	852,601	

(収入の部)1,230,221円－(支出の部)852,601円
＝377,620円[次年度繰越額]

リレー
エッセイ

杉田久女を顕彰して

柿本 和夫

現在では、考えられないことだが、かつて「北九州は文化砂漠だ」とマスコミから度々批判された時期があった。五市合併から年数浅く財政が苦しい中で、新市としての行財政制度や基本的施設の統一整備に集中していた時期でもあり、耳の痛い批判であった。

当時の谷丘平市長も大変苦慮されていたように記憶する。市に勤務していた私にとっても、「文化砂漠」の批判はトラウマのように残った。

後年、小倉北区に勤務することになり、小倉の町の歴史と文化を洗い浚い見直し「杉田久女」についてはぼつかりと穴が開いていることに気付いた。正確には顕彰活動が十数年断絶していた。そこで、数年かけて「杉田久女」についての講演会を開催した。講師は田辺聖子(作家)、上野さち子(俳人、現山口県立大名名誉教授)、伊藤敬子(俳人)の各氏に依頼した。毎回の会場は満席で、市民の関心の高さを思い知らされた。この活動を継承していくた

めに「久女の会」を立ち上げ、毎年久女ゆかりの円通寺で、久女忌(二月二十一日)を行うことにした。この事を誰よりも喜んでくれたのは、円通寺の住職林文照(当時黄髮宗僧長)氏であった。「この日を守っていた」と私の両手を強く握られたことを鮮明に記憶している。それから二十年が経過した。

久女忌では思わぬ出会いもあった。遠路(東京、山陰等)から久女旧跡を訪ねて来られた旅の人、又ある時は「久女評伝では、宇内先生を悪く伝えているが、宇内先生は立派な先生であった」と杉田宇内の教え子の方から抗議を受けたこともあった。

現在、俳句人口の圧倒的多数は女性である。女性俳句の最盛期とも云える。その草分け、先覚者の一人として久女は位置づけられている。近年は、久女ゆかりの地(愛知県小原、福岡県添田)において久女顕彰の俳句大会が行なわれている。またある出版社の「女性俳句この一句」というテーマのアンケート調査で、現役俳人が選んだ第一位は「花衣ぬぐや」の久女の句であった。

郷土が生んだこの天才的俳人の顕彰を通じて、「文化の薫る町づくり」の一助としたいと考えている。

会員投稿

「遠藤周作文学館」を訪ねて

門司区在住 森田 稔

遠藤周作の代表作『沈黙』(1966年)が今、再び脚光を浴びています。「沈黙」は1971年に篠田正浩監督により映画化され評判になりましたが、今年に入って敬虔なカトリック教徒でもある巨匠マーティン・スコセッチ監督の手で制作、公開されたからです。小説の舞台は長崎市外海といわれていますが、ここは世界遺産登録をめざす潜伏キリシタン関連施設のある場所として話題を集めています。

私は、映画の興奮さめやらぬ4月のある日、外海を訪ねることにしました。遠藤周作文学館は角力湾を見下ろす風光明媚な高台にあります。瀟灑な館内には遠藤周作さんの多くの作品ごとに年譜、作品紹介に原稿類や手紙、写真が展示され、十字架のスタンドグラスが「キリスト教作家、遠藤さんの館」を象徴しています。

この日は、学芸員の説明つきという幸運にも恵まれ「映画公開とともに来館者が増えました」との話通り、館内には多くの見物者でにぎわいを見せていましたが、ゆつたり思索にふける人の姿が心に残りました。

館の外に出ると眼下には真つ青な海が広がり、かつての海底炭鉱の池島が浮かんでいます。炭鉱の労働と歴史を今に伝えるツアーも開かれているとのことでした。

「出津文化村」入口の歴史資料館ではキリスト教弾圧を物語る数々の遺品が展示され、すぐそばに遠藤さんの文学碑が立てられています。歩いてすぐの「出津教会」も世界遺産関連施設の象徴として多く人の姿がありました。私も敬けんな気持ちになり祈りを捧げました。

長崎市外海は初めて訪れたところでしたが、帰つてすぐ遠藤周作さんの小説『銃と十字架』を読み、日本におけるキリスト教布教と迫害の歴史といった書物に目が向く日々が続いています。

文学館つて人生のオアシスですね。

